



日研生E-だより 第8号

筑波大学 日本語・日本文化学類

2013年11月15日

修了生のみなさん、お元気でしょうか。『日研生E-だより』第8号をお届けします。この8月7日に2012年度の日研生は無事に修了式を終えました。そして10月に新しい日研生14名を迎えました。

《2012年度修了された日本語・日本文化研修留学生》



後列左から:

- ・Nigar アゼルバイジャン
- ・Jorge メキシコ
- ・Adrian ポーランド
- ・Gunta ラトビア
- ・Bekhzod タジキスタン
- ・Jouke オランダ
- ・Christian イタリア
- ・Elena ロシア
- ・Marina ロシア
- ・Eva スロベニア
- ・Thi Thuong ベトナム
- ・Thi Lan Anh ベトナム

2013年度日研生の出身国は次の通りです。

出身国名	人数
中国	1名
ロシア	1名
インド	1名
スリランカ	1名
ベトナム	4名
マレーシア	1名
韓国	1名
ウクライナ	2名
フィンランド	1名
ポーランド	1名
計	14名



2013年11月9日～10日 2013年度日研生研修旅行

■ 2012年度担任の長田友紀先生と副担任の宮本エジソン先生からメッセージをいただきました！

長田先生

日本を離れてしばらくたちますが、皆さんお元気でしょうか。

日研生の担任は私も初めてでしたが、あっというまの1年間で楽しいひとときでした。水曜日の夕方の授業、成田山への研修旅行、修了論文の発表会などいろいろな行事をしてきました。着物や鎧(よろい)を着たみなさんの姿は特に印象に残っています。中でも、みなさんにとっては修了論文を書いたことがもっとも大きな経験だったのでないでしょうか。ご指導の先生がたやチューターさんと研究テーマをめぐって多くの話し合いをすることは、普通の留学ではなかなか味わえない経験だったと思います。

最後の修了式パーティーでのみなさんのスピーチも忘れられません。1年間でこんなに日本語が上手になったのかと驚きました。様々な行事や修了論文に熱心に取り組んだ成果だったと思います。

今、皆さんは母国にもどってそれぞれの道を進んでいることでしょう。日本での成果がいけるといいですね。機会があればぜひまた、日本にきてください。



宮本先生

日研生の皆様、お元気ですか？ 色々と忙しいかと思いますが、無事に元の生活に戻っていますか？「元の生活」と言っても、1年間も海外で過ごす自分自身が変わってしまっ、元に戻るのがなかなか難しいとは思いますが…。さて、最後にお会いした際に、自分が書き上げた論文に満足がいかず、更なる研究を希望する方々がいらっしゃいました。この「もっと知りたい、もっと勉強したい、もっともっと立派な論文を書きたい」という気持ちは研究者を駆り立てる原動力です。日本(もしかしたら筑波大)へまた来て、研究を続けてみたい方には、前回のものとは別の文科省の奨学金があります。これは、研究生として2年間、大学院の入試に受ければプラス5年間(修士課程2年+博士課程3年)、最大7年間ほどの奨学金です。ご興味のある方はぜひ <http://www.studyjapan.go.jp> をご覧ください。今後とも、熱心な皆様の研究成果をお聞かせください！

■ 2012年度日研生に聞きました！

今年8月に修了した日研生12名に次の質問をしたところ、7名の方からお返事をいただきましたのでご紹介します。

1. あなたが日本/筑波大学で一年間日研生として過ごした感想や、心に残る経験・思い出などについて教えてください。
2. あなたが帰国後の現在の様子を知らせてください。(近況報告、帰国後に日本での生活を振り返って思うこと、など)

■ ハ ティ トウオン さん(ベトナム出身、ハノイ大学在籍) HA, Thi Thuong

1. 筑波大学に行って本当に、本当によかったんです。日本で人々に出会って本当に、本当に良かったんです。他の大学より勉強が大変だったんですが、先生方そして友達の応援で非常に楽しい一年間を過ごしました。なので、卒業後、博士の勉強のため日本に行っても、絶対筑波大学を選びます！日本一の大学、だと思います。勉強環境は最高！長く書くつもりだったんですが、どう書けば自分の思いを表せるかわからないんです。ただ、追越宿舎から学校への道をもう一度

もう一度歩きたいんです！ただもう一度もう一度筑波大学の図書館で勉強したいんです。筑波での一年間はこの一生忘れられない時間になりました！

2. 8月から四年生になりました。勉強のかたわら、翻訳者・通訳者として、そして日本語能力試験N2、N3の教師としてやっています。毎日毎日忙しいですが、元気にやっています。先生方、ご安心ください！筑波大への愛を抱きながら、一生懸命頑張っています・・・戻る日まで。この一年間、ありがとうございました。先生方、日本人そして外国人の友達！ナナのことを忘れないでくださいね。

■ エヴァ ミゼリット さん（スロベニア出身、リュブリャナ大学在籍） MIZERIT, Eva

1. 私が筑波大学に来たのはもう三回目ですが、日研生として一年間日本の大学へ来て勉強するのは初めてでした。日研生の授業と研修旅行で学んだこと、または自分が旅行したところ、体験したことを含めて、日本語また日本社会、歴史、伝達、など日本の様々なことを経験しました。自分の日本語を上達するために筑波大学で受けた授業がすごく便利でした。それだけではなくて、先生方、チューター、先輩、クラブの友達、同級生、日常出会った日本人との相互作用のおかげで日本語のスキルアップができたと思います。留学中で苦しい立場にあって、担当先生、指導教師、留学生センターの皆様、チューターの二人のおかげで、勉強を続けることができ、修了論文もできました。皆様に心から感謝いたします。この一年間



の残ったことについて考えたら、日研生の同級生がまず頭に浮かびます。授業以外でも一緒に遊んだりして、お互いに見ていて、持ちつ持たれつしました。大学生活以外では一番記憶に残っていることは、富士山登りです。富士山を夜に登っているうちに昔のかみさまの天国にいるような気がしました。そして、その夜にペルセウス座流星群があって、たくさんの流れ星が出現し、絶対忘れない美しい場面でした。私の人生の一部分であった筑波大学で過ごした一年間が素晴らしい思い出になりました。すべてが私の心に残っています。ありがとう日本、ありがとう筑波大学。

2. 留学生プログラムが終わってもう二ヶ月になりました。帰国したあとすぐうちの大学で試験を受けるために勉強に専念しました。10月になって、テスト期間が過ぎて、日本研究と英語のそれぞれの卒業論文の研究に没頭しています。その上、日本語能力試験の勉強で忙しいです。将来日本に戻って、大学院生か研究者として日本の大学に入るために頑張ります。

■ クリスティアン ラング さん（イタリア出身、ウィーン大学在籍） LANG, Christian

1. この一年間、勉強はもちろん、とくに日本人や他国の留学生と組むチャンスが私の成長に一番影響を与えたと思う。世界のさまざまな見方とか、異文化交流などの経験は私自身の考え方も思いがけないように変えた。どう説明したらいいかわからないのだが、私は日本・筑波大での経験によって世界の門戸が開放されたと感じる。勉強のほうでも、奇抜なテーマなのに研究させていただく上、適切に指導されたのは心から感謝の気持ちを述べたい。



2. 現在、ウィーン大学で卒業論文を書きながら、毎日新聞ウィーンの外国特派員事務所でインターンシップをしている。日本には確実に戻るつもりだが、ただいまのところは具体的な予定なし。

■ アドリアン サピヤ さん（ポーランド出身、当時ヤギエウォ大学在籍） SAPIJA, Adrian

1. つくばに留学し、色々びっくりしました。西洋人はよく日本について様々な既成概念を持っていますが、日本に行ってから、それはだいたい崩れました。ポーランドの大学よりゆとりのある筑波大学の勉強制度のおかげで、時間の余裕が多かったので、私にとってはまるで一年間の休みを取ったような経験でした（まあ、論文を書くのは少々苦労しましたがね）。東京が非常に近いため、よく買い物に行きました。秋葉原でたくさんのおたく物を買ってきました。旅行にも遠いところまで行きました。九州、特に屋久島は素晴らしかったです（新幹線はすごく高かったですけどね）。沖縄へ行くという私の夢の一つも果たせました（飛行機は新幹線より何倍も安いですね）。つまり、日本に留学したのは私にとって大冒険だったのです。
2. 今、ポーランドのクラクフ市にあるヤギェロン大学で勉強を続けています。修士課程の一年生です。日本で書いた論文は修士論文にも役に立つかもしれません。ポーランドに戻ってから、久しぶりに本当のパンを食べたこともうれしく思います。

■ キム ティ ラン アイン さん（ベトナム出身、ハノイ国家大学外国語大学在籍） KIM, Thi Lan Anh



1. 筑波大学で短い一年間日研究生として過ごしましたが、心に残る体験が数えきれないほど沢山あります。まずは、留学生の生活がどういうものか初めて体験できました。私は小さいころから留学の夢を抱いていましたが、筑波大学に合格することでやっと自分の夢を実現できました。ただし、それはまだ最初のステップだと

思います。どのように留学生生活を面白く、有意義な時間にするかという問題が難しかったのです。勉強、友達作り、日本満喫、ベトナム文化の紹介など色々なことのバランスをとるのは本当に簡単ではありません。1年間あつと言う間に過ごすことを心がけていましたが、時間を上手く使用できなかつたときも多かつた。したかつたがまだできていないことがあつて、ベトナムに帰つたときは何だか悔しいことがあります。もう一度留学できたら、いいなと思つております。そのときは是非貴重な一刻一刻を大切に、したいことを是非やります。もちろん、今もその時間を大切にする習慣を身に付けています。次に、筑波大学に留学することを通じて、「国際」、「グローバル」とは何か一部分かるようになりました。多くの外国人の留学生と出会えて、仲間になりました。勉強でも、日本人の先生だけでなく外国人の先生から学んで、非常に面白かつたです。論文のゼミでは、日本語に関する研究だけでなく、韓国語、イラン語、中国語に関する各問題に接触するチャンスがありました。そして、何よりも、筑波大学のグローバルな環境のおかげで、実力と決意があれば、どんな環境でも活躍できることが分かるようになりました。留学生センターの韓国人のホー先生の授業に出るときや、日日学類長室のスーさん、カナダ人のプリシラ先生に会う時はその方々のように国際人になりたいと思います。もう一つは、一生忘れられない初めての論文研究です。初めての論文ですが、日本でこそ研究を進むチャンスがあつて、本当に嬉しかつたです。その上に、松崎寛先生とチューターの金佳さんの熱心なご指導に従い、研究を行うことを通じて、日本語はもちろん、





研究方法も前よりもう少し分かるようになってきました。また、渡辺さん、ユジンさん等松崎ゼミの皆様と日本人の友達の皆様から色々ご支援を頂きました。その方々の笑顔、声が今でも私の頭によく出てきました。時々泣きたいほど皆に会いたかったです。もちろん、是非日本に戻るのでまた会えると信じております。さらに、一年間日研生の生活を送って、物事の見方、考え方も変わりました。前に体験したことがないことを体験し、会ったことがない人たちに出会うことで、私の人生がカラフルになってきました。日研生の友達とホームシックの気持ちを話したり、一緒にパーティーをしたり、皆の気持ち、悩みを聞いたりすることで、自分の心も広がってきました。1年間の留學生活がなかったら、そのような貴重な体験ができないだろうとっております。実際には、つくばでの一年間は以上に述べたことよりたくさん思い出があります。その思い出は私の人生の宝物の一部です。文部科学省、筑波大学、そしてお世話になった先生方、友達の皆様にご心よりお礼を申し上げたいと思っております。近い将来はまた日本で再会するか、世界のどこかでまた会えるだろうと信じております。

2. つくばから帰った後、すぐに復学しました。今はハノイ国家大学外国語大学4年生です。筑波大学で勉強した科目の成績はベトナム国家大学に認められましたから、履修必須の科目も少なくなってきました。それで、社会活動とバイトのための時間があります。また、筑波大学で勉強したことは今の翻訳・通訳の授業や仕事、社会活動に色々役に立ちます。12月は日本語能力試験N1を受けます。まだ何も準備していないので本当に心配しています。日本にいる時に受験したら、よかったのと思います。1学期末は卒業論文の研究時間に入ります。今度は日研生の修了論文を活かし、まだ完成していないところを完成して、研究内容をより深くする予定です。留学という形で是非日本に戻りたいと思っておりますから、大学卒業後はうちの大学やNGO組織で働いて、奨学金をとって日本に留学する予定です。日本とベトナムの掛け橋の役として活躍したいと思っております。I LOVE TSUKUBADAI!

■ **ロドリゲス ホルヘ さん (メキシコ出身、メキシコ国立自治大学) RODRIGUEZ, Jorge**

1. 日本で過ごさせていただいた留学生生活は、出会った方々のおかげで、ずいぶん幸福な期間だった。日・日の方々が学類の知識から、現代日本文化まで教えてくださり、日本教育や社会の行動から大きな影響を受けた。そして、井坂流津軽三味線倶楽部無絃塾(いさかりゅう つがるじゃみせん くらぶ むげんじゆく)の皆様は音楽や流派の知識などを教えてくださって、まるで家族のように守ってくださった。これからはどこにいても、日本での留学期間を全然忘れなく、習ったことを実行に移したいと思っている。筑波大学で日研究生になったことは大変光栄だと思っている。新日研究生になった皆様は筑波大学生らしく、一生懸命がんばってください。応援しています。



2. メキシコに帰って、うちの大学の卒業に向かって、日研究生として日本音楽に触れた経験を生かして卒論を書いている。日本語の授業と琴の稽古に戻った。そして、スペイン語と音楽の教師をやっている。日本、そして筑波大学で過ごした経験を自分の作曲で伝えたいので、そこも汗を流している。日本で習った行動などはときどき国の行動と違って、日本での生活が懐かしく思いながら、文化に溶け込むのは人間というものなのではないだろうか。

■ シャトーヒナ エレナ さん（ロシア出身、モスクワ市立教育大学在籍） SHATOKHINA, Elena

1. 日研生として日本で過ごした一年間は今までの一生の中で最も忘れられない良い年になったと思う。日本語を専攻している私にとっては、日本の事情を遠くから見るのではなく、実際に自分の国と違う別の世界の一部として生活できて、夢



みたいだったとしか思えない。筑波大学での授業、論文、部活、旅行などができて、とても嬉しかった。筑波の先生方や大学生達などの日本人とコミュニケーションしたり、様々な体験をしたりして、不思議で魅力的な日本文化がよりよく分かるようになったのではないだろうか。その上、世界中の留学生が集まっている筑波大学の素晴らしい状況のおかげで、日本文化に限らず世界各国の異文化と触れ合うことができた。日研生として得られた貴重な体験はきっと将来の生活に役に立つと思う。この一年間お世話になった皆様に対して、感謝の気持ちで溢れている。ありがとうございました！

2. 国に帰っても、心がつくばに残ったままのような気がする。日本と日本で友達になれた皆が恋しくてしょうがない。自分の日本語能力に関して、もっと自信が持てるようになったので、今は一生懸命日本語を使えるきっかけを探している。あと数ヶ月で卒業する私がしているバイトも、日本語に関係がある。また日本に行ける日が絶対に来るから、楽しみにしている。また会いましょう、日本。

■ 思い出のワンショット



2012年11月10日～11日 2012年度日研生研修旅行



2013年6月19日 修論発表後の打ち上げ会



2013年8月7日 日本語・日本文化研修留学生修了祝賀パーティー

「日研生 E-だより」も 8 号になりました。皆さんからのお便りをお待ちしております。

筑波大学 日本語・日本文化学類

HP <http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>

Twitter @Nichinichi

Facebook <http://www.facebook.com/tsukuba.nichinichi>



kimura.mayumi.gf@un.tsukuba.ac.jp

soo.woon-kuen.gp@un.tsukuba.ac.jp

※メールアドレスが変更になった際にはお知らせください。